

本島伝説

そのす 園の洲

約 350 年前、本島の福田というところに代官がおりました。代官の厳しい年貢の取り立てに困った村人たちは、3月3日のひな祭りの日に代官を沖の砂浜へ潮干狩りに誘い出し、そこで酒宴を開きました。その後、村人たちは酒に酔って眠った代官を一人砂浜に置き去りにして船で帰って行きました。一人残された代官は帰るすべもなく、ついには溺れ死んでしまいました。

代官には、お園という一人娘がおり、このことを知ったお園は、洲の見える岬に駆け登り断崖に突き出ている松の木にすがりつき、洲を見つめたまま泣き崩れてしまいました。翌朝、お園の姿は見当たらず、断崖から身を投げたのか松の根元には草履だけが残されていました。

それから、お園がすがりついた松を「こがれ松」、沖の洲利を「園の洲」と呼ぶようになりました。また、このことを哀れに思った村人たちは、3月3日にはひな祭りをしなくなったということです。



うっすらとみえる園の洲



お園身投げ碑